

穏やかな最期に向けて
～終末期医療の現場から～

医師・作家 南杏子

出版物



『サイレント・ブレス』
幻冬舎



『ザ・ベスト・ミステリーズ
2017』 講談社



『赤黒上げて、白とらない』
小説現代 6月号 講談社

今日の内容

～「穏やかな最期」に向けて～

1 終末期医療における現場から見た問題

【典型的なケース】

ある日、90歳の父がぐったり・・・

点滴治療などの結果、少し持ち直す。脱水症と低栄養との診断。



経鼻胃管

身体拘束

誤嚥性肺炎

胃瘻

2 終末期医療の専門病院について(映像)

3 穏やかな最期に向けた終末期医療とは

典型的なケース

【経過】

- 90歳父親が、一年くらい前からほとんど横になって過ごしていた。ここ一週間は、ご飯をあまり食べなくなっていた。
- ある日、会社から自宅に戻ると、父がぐったりしている。すぐに救急車を呼んだ。
- 点滴治療などの結果、少し持ち直す。
診断は、脱水症と低栄養。

「患者さんが食べません」

→経鼻胃管（鼻から管を入れる）

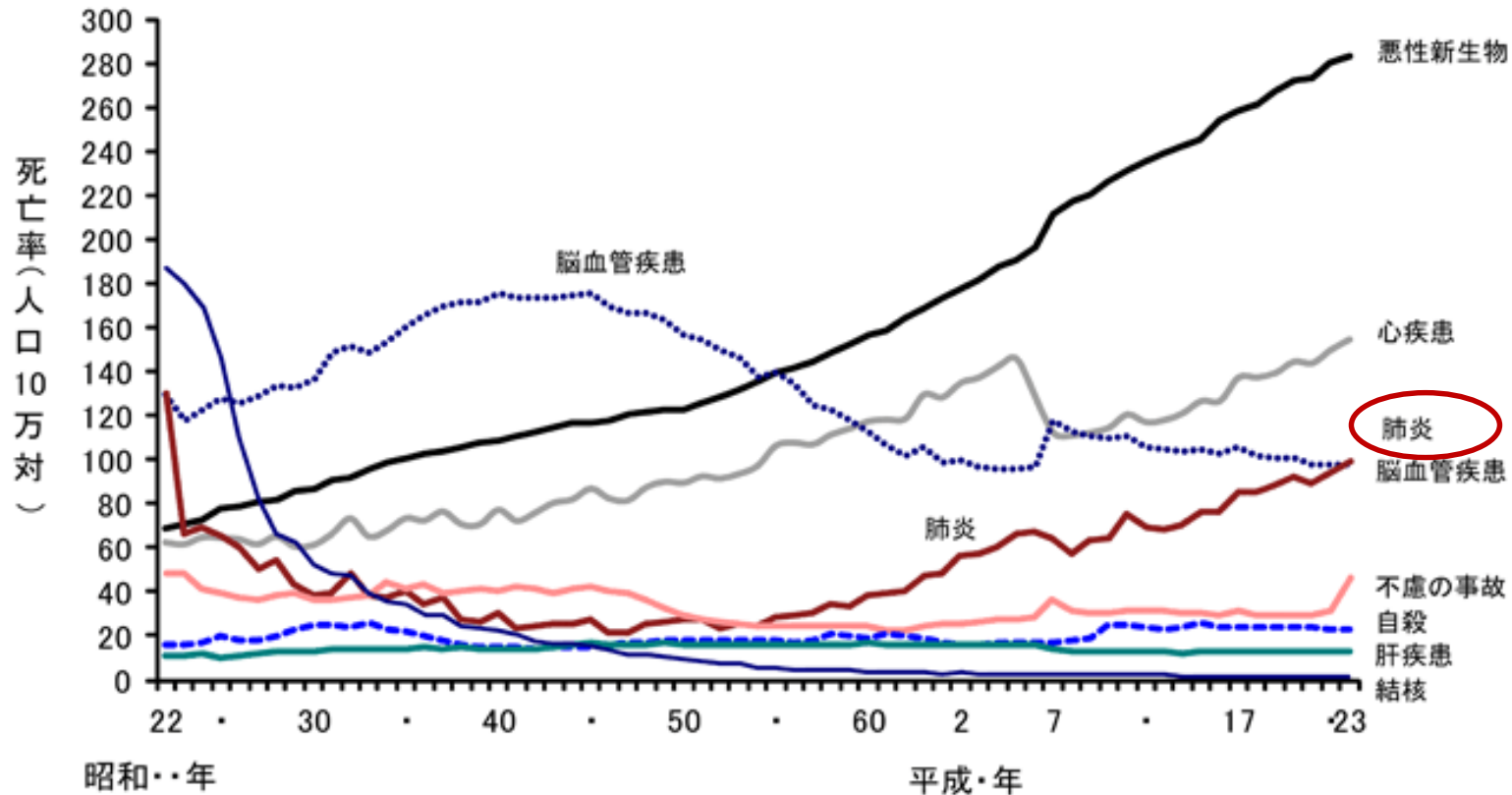
「患者さんが管を抜こうとします」

→身体拘束（手にミトン etc.）

「熱が出ました」

誤嚥性肺炎（嚥下の失敗による肺炎）

主な死因別にみた死亡率の年次推移



平成23年人口動態統計月報年計(概数)の概況(厚生労働省)

誤嚥性肺炎の原因

- 侵襲物

 - 食物、胃液

 - 唾液（細菌は約800種：肺炎球菌、緑膿菌、インフルエンザ菌 etc.）

 - （唾液1mlあたり10億個の菌=便）

 - （cf. 水道水= 1mlあたり100個以下）

- 抵抗力

 - 筋力低下（嚥出力）

 - 神経障害（脳血管障害）

経鼻経管の次に

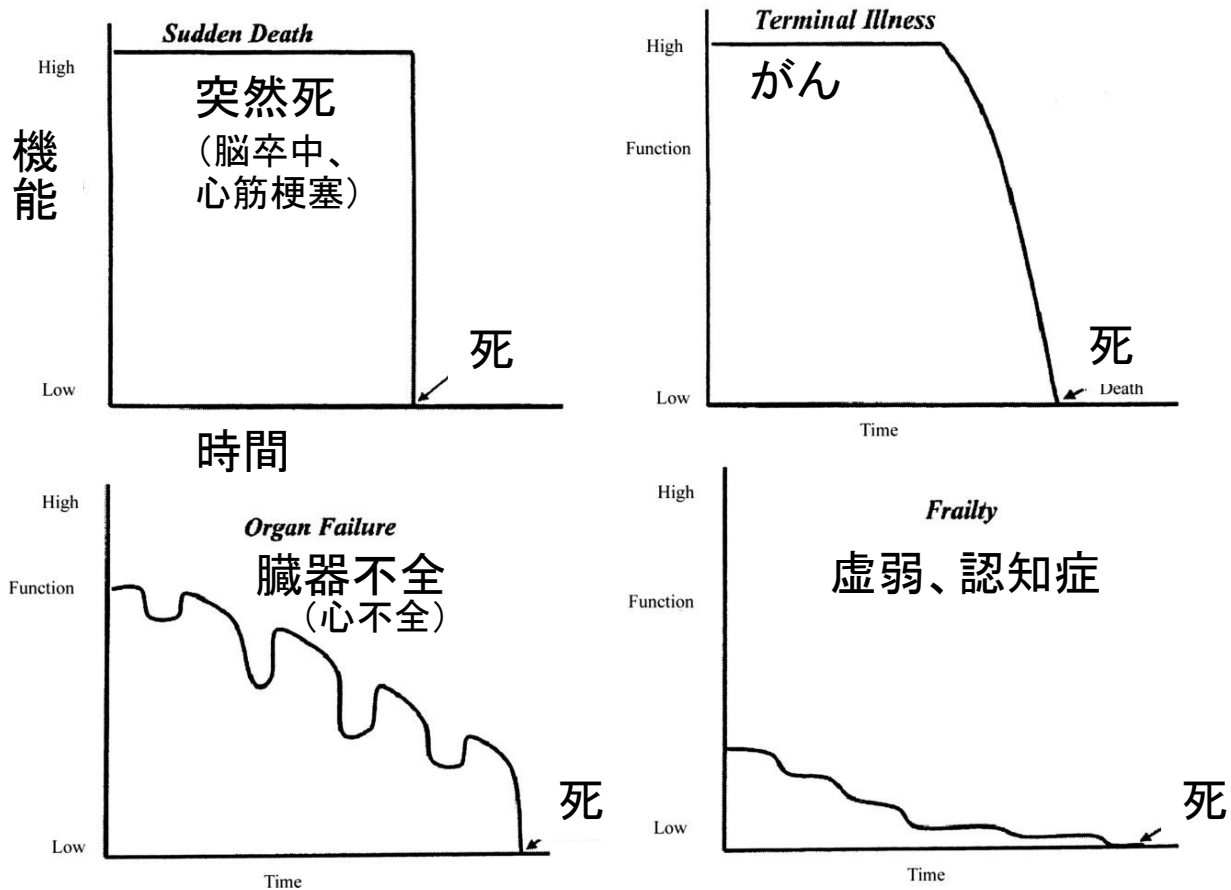
いろいろ
自宅か施設に戻るにあたり、「胃瘻」

病状が不安定な場合に

- 呼吸・・・人工呼吸器
- 血圧・・・昇圧剤
- 脈拍・・・心臓マッサージ etc.

死に至る過程

Proposed Trajectories of Dying



終末期医療の専門病院の一例



青梅慶友病院の概要

入院患者数

男性 153名(21%)
女性 545名(78%)

合計 698名

(H 28.9.1 現在)

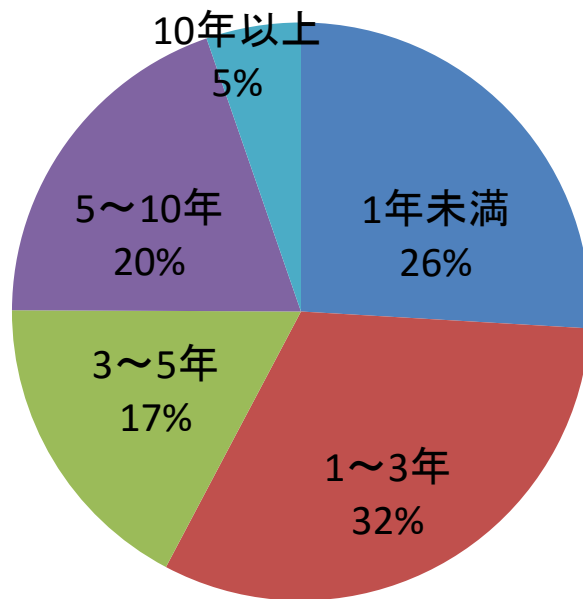
年齡

- 平均年齡 88.5歲
 男性 86.4歲 女性 89.1歲

- 年齡別構成

80歲以上	90%
90歲以上	49 %
100歲超	3 % (22名)

在院期間



平均在院期間
3年4ヶ月

(最長 24年5ヶ月)

生活状況

- ・認知症(中等度以上) 546名(78%)
- ・自力で移動できない 493名(70%)
- ・オムツ終日使用 506名(73%)

(H28.9.1 現在)

退院

(全698名)

軽快者数 22名 (8 %)

転院者数 12名 (4 %)

死亡者数 242名 (88 %)

(H27.9.1～ H28.8.31)

職員数

	医師	看護師	介護職員 員	リハビリテー ションスタッフ
常勤換算数 (対法定人数)	21名 (140%)	173名 (120%)	266名 (165%)	27名 (245%)

総数 787名

病院の主な職種

- ・医師
- ・理学療法士
- ・リハビリ助手
- ・入浴介助
- ・クリーンキーパー
- ・調理師
- ・薬剤師
- ・喫茶スタッフ
- ・施設管理
- ・看護師
- ・作業療法士
- ・生活活性化員
- ・リラクゼーション
- ・ハウスイド
- ・調理員
- ・臨床検査技師
- ・病棟アシスタント
- ・庭園管理
- ・ケアワーカー
- ・言語聴覚士
- ・食事介助
- ・レクリエーションワーカー
- ・医療ソーシャルワーカー
- ・管理栄養士
- ・診療放射線技師
- ・病棟クラーク
- ・保育士
- ・事務

穏やかな最期に向けて

- 終末期医療の目的は、延命治療ではない。
- 医療だけでなく、多くの人たちにより終末期患者を支えることで、患者も快適な終末期を過ごせる。
- 心おきなく大切な家族を預けられる場所作りが、介護離職を防ぐ。